

国立国語研究所論集

投稿原稿テンプレート 202607 版

国語研人^a 立川 緑^b

^a 国立国語研究所

^b 論集大学／国立国語研究所 共同研究員

コメントの追加 [A1]: 論文名は、中央揃え 14 ポイント太字（副題がある場合は、中央揃え 10.5 ポイント太字）で記す。

コメントの追加 [A2]: 著者名（中央揃え 12 ポイント普通字）、次の行に所属・職名（中央揃え 10.5 ポイント普通字）を記す。

コメントの追加 [A3]: 行頭に要旨（ゴシック体太字 10.5 ポイント）と記し、次の行から 20 行以内で要旨を記す（10.5 ポイント普通字）。

コメントの追加 [A4]: 行頭にキーワード：（ゴシック体太字 10.5 ポイント）と記し、最大 5 個のキーワードを挙げる（10.5 ポイント普通字）。

要旨

国立国語研究所では、国立国語研究所における研究活動の活性化と成果の公表及び所内若手研究者育成を目的として、『国立国語研究所論集』（英語名“NINJAL Research Papers”）を各年度に 2 回発行します。原稿を執筆する際は、「投稿・執筆要領」の最新版に目を通し、執筆の参考にしてください*。

キーワード： キーワード 1、キーワード 2、キーワード 3、キーワード 4、キーワード 5

1. はじめに

このファイルは、投稿原稿を作成する際の注意事項について述べ、また、これ自体が論文の書き見本となることを意図したものです。なお、論集は、印刷所で組版して PDF 版を国立国語研究所ウェブサイトで公開しますが、Word 原稿と組版とでは、異なる場合があります。

2. ページレイアウトとフォント

原稿は A4 判横書き、43 字×36 行で作成する（マージン上下左右 2.5cm、フォント 10.5 ポイント）。編集委員会が認めた場合に限り縦書きも可（A4 判縦書き、30 字×24 行×2 段）。

和文中の句読点は、引用部分を含めて原則として全角の「，」と「。」（縦書きの場合は「、」と「。」）を統一的使用する。ただし、英文の句読点は半角の「,」「.」を用いる。

『国立国語研究所論集』では、原則として、謝辞等は先頭ページの脚注部分に表示し、要旨の末尾に「」を付けてリンクさせます。

謝辞等の例を示す。以下のような一文を謝辞等に入れること。

共同研究プロジェクトの情報は、<https://www.ninjal.ac.jp/research/cr-project/> を参照してください。

- 共同研究プロジェクトの場合：「本稿（の一部）は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「〇〇〇〇」（プロジェクトリーダー：〇〇〇〇）の研究成果である。」
- 共同利用型共同研究の場合：「本稿（の一部）は国立国語研究所の共同利用型共同研究「〇〇〇〇」（研究代表者：〇〇〇〇）の研究成果である。」
- 外来研究員の場合：「本稿（の一部）は筆者が〇〇〇〇年〇〇月～〇〇〇〇年〇〇月まで国立国語研究所に外来研究員として滞在した際の研究テーマ「〇〇〇〇」の研究成果である。」
- 学会等へ著作権を譲渡しているなどの理由で原稿の著作権が著者にない場合：「本稿は著作権者である〇〇学会の許諾を得て投稿したものである。」
- 学会等の求めに応じて原稿の複製権及び公衆送信権の行使を著者が学会等により許諾している場合：「本稿は〇〇学会の許諾を得て投稿したものである。」
- 本稿はプレプリントとして〇〇〇に公開されたものである（<https://doi.org/xxxxx/xxxxx>）。

3. 見出し番号

論集では、最上位を「節」とする。「はじめに」「導入」「おわりに」「結語」なども、必ず見出し番号を振る。「はじめに」「導入」は、0.ではなく、1.から始めること。

本文のセクション分けは、「3. 見出し番号」「3.1 節より 1 段階小さい見出し例」のように番号を付け（インデントはしない）、基本的に、見出しの前の行を 1 行空ける（後ろは空けない）。

本文中で、他の節及び下位のセクションに言及する場合は、「第 3 節では」「3.1 で述べたように」などのように記す。

コメントの追加 [A5]: 見出しのレベルにかかわらず、番号もその後に続く見出しも太字（英数字は Times New Roman、漢字・仮名はゴシック体）。

3.1 節より 1 段階小さい見出し例

本文は、見出しの次の行から始める。

3.2 節より 1 段階小さい見出し例

本文は、見出しの次の行から始める。

4. 図表

図表には、それぞれ通し番号を付け、必ずキャプションを付ける。図表自体は、行の幅に対して左右中央に配置する。

表 1 表のキャプションは表の上に左端から配置

	項目 A	項目 B	項目 C
項目あいうえお	123	234	567
項目かきくけこ	98	76	54
項目さしすせそ	135	357	579

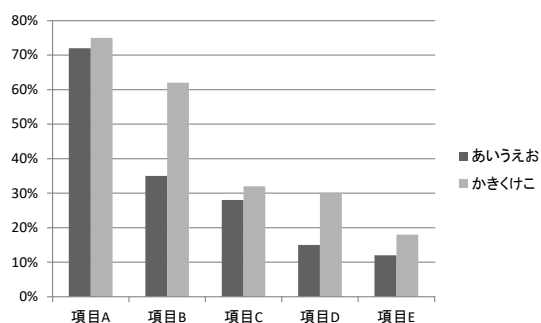


図 1 図のキャプションは図の下に左右中央に配置

論集では、図・画像・グラフなどについては、白黒を基本とするが、カラーで掲載することもできる。カラーを使う場合は、「投稿・執筆要領」の「付録」の「4. 図表等の色使いについて」の留意事項に従うこと。

なお、他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理、及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は、著者の責任において行うこと。

5. 例文表記

例文と本文の間は1行空ける。例文には丸括弧で通し番号を付け、字下げせずに左揃えとする。

- (1) Hanako wa imoto to eiga o mi-ta.
Hanako TOP sister with movie ACC see-PAST
‘Hanako saw a movie with her sister.’

6. 注

注は通し番号¹を付け、論文末にまとめて記載するか、注を付けた各ページに脚注として記載する。採用決定後、組版では脚注として記載される²。

7. 参考文献への言及

参考文献は、本文または注において引用または言及されたもののみを、論文末にまとめて記載する。また、該当する場合は、例文出典を論文末にまとめて記載する。

本文及び注において参考文献へ言及する場合は、鈴木（1979: 40–53）は〇〇〇、のように行う。

長い引用の場合は、以下のようにする。

長い引用の場合は、本文との前後を1行ずつ空け、引用部を2字下げる。引用部をカギ括弧で囲む必要はない。（国立国語研究所論集編集委員会 2016: 6）

8. おわりに

以上が分かりやすい原稿作成の参考になれば幸いです。

「投稿・執筆要領」の全文及び『国立国語研究所論集』オンライン版は、国立国語研究所ウェブサイト（<https://www.ninjal.ac.jp/info/publication/papers/>）をご覧ください。

参考文献

Bloomfield, Leonard (1933) *Language*. New York: Holt.

服部四郎 (1976) 「上代日本語の母音体系と母音調和」『言語』5(6): 2–14.

Jakobson, Roman, Gunnar Fant and Morris Halle (1963) *Preliminaries to speech analysis: The distinctive*

コメントの追加 [A6]: 行頭に参考文献（ゴシック体太字 10.5 ポイント）と記し、次の行から参考文献一覧を記す（10.5 ポイント普通字）。1つの項目が2行以上にまたがる場合は、2行目以降を2字分インデントする。参考文献は、第1著者のアルファベット順または五十音順に並べる。参考文献の記述言語が複数ある場合は、言語ごとに分けて並べてもよい。

features and their correlates. Cambridge, MA: MIT Press.

金田一京助 (1932) 『国語音韻論』 東京：刀江書院.

Kiparsky, Paul (1968) Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universals in linguistic theory*, 171–202. New York: Holt, Rinehart and Winston.

Postal, Paul (1970) On the surface verb “remind”. *Linguistic Inquiry* 1: 37–120.

上野善道 (1997) 「複合名詞から見た日本語諸方言のアクセント」 国広哲弥・廣瀬肇・河野守夫 (編) 『アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』 231–270. 東京：三省堂.

関連 Web サイト

国立国語研究所 (2025) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (バージョン 2021.03, 中納言バージョン 2.7.2, 分類語彙表情報 2025.03) <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (2022 年 5 月 10 日 確認)

国立国語研究所 (2018) 『日本語話し言葉コーパス』 (バージョン 2018.01, 中納言バージョン 2.7.2) <https://clrd.ninjal.ac.jp/csj/> (2025 年 5 月 10 日 確認)

例文出典

新潮文庫の 100 冊 CD-ROM, 1995, 東京：新潮社より

赤川次郎『女社長に乾杯』, 石川達三『青春の蹉跎』, 北杜夫『検家の人々』, 倉橋由美子『聖少女』, 沢木耕太郎『一瞬の夏』, 高野悦子『二十歳の原点』

NINJAL Research Papers: Paper template ver. 202607

KOKUGO Kento^a

TACHIKAWA Midori^b

^aNINJAL

^bRonshu University / Project Collaborator, NINJAL

Abstract

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL) publishes “NINJAL Research Papers” twice a year, with a view to promoting research at the institute and publishing its results, as well as training young scholars therein. This document describes the common requirements for submission of papers to the “NINJAL Research Papers”.

Keywords: keyword 1, keyword 2, keyword 3, keyword 4, keyword 5

¹ 注の番号付けは，文中も注の冒頭も，上付数字にする。なお，引用のためだけの注は付けない。

² 注番号は，和文の場合は，句読点の前に打つ。英文の場合は，「,」「.」の後に打つ。